

整形外科専門医に聞く

整形外科第二部長

いとう おしあき
伊藤 芳章



『 人工股関節の今 』



股関節の変形で股関節痛を生じている患者さんにとって、人工股関節は非常に優れた治療法となってきました。一番のメリットは痛みがなくなること、整形外科手術の中でも最も満足度の高い手術の一つとされています。その他に変形によって動かなくなっていた関節の動きが改善されることや左右の足の長さを揃えることができるという長所があります。以前は摩耗などの問題がありましたが、人工関節の素材の改良によりシミュレーション上は200年大丈夫！という報告もされてきています。

残る問題は脱臼です。股関節の過度な動きによって人工股関節が外れてしまうことですが、1-2%の確率で起こると言われており、未だに再手術の原因の上位となっています。この問題に対しては、股関節の周りの軟部組織（筋肉や関節包）などをできるだけ切らずに温存することで脱臼しにくくするという最小侵襲手術が発展してきています。私はこの最小侵襲手術に関わる股関節周囲の解剖の研究をライフワークとしていることもあり、昨年从这个手術の講師を務めるようになりました。今年は最小侵襲手術の進んでいるアメリカの先生から招かれ、実際の手術に入り議論してきました。アメリカ人医師の経験数からは劣りますが、一つ一つの手技の意義を見つめ極めようとする力は日本人の方が勝っていると感じました。アメリカでの経験、解剖から得られた知見などをすり合わせ、脱臼のない人工股関節になるよう股関節外科医は皆目指しているところです。

股関節痛でお困りの方はぜひ受診してみてください。何でもすぐ手術というわけではなく、まずは手術しない方法で症状が軽減できないかを考えます。その上で症状がお困りの場合に手術を検討しています。



Dr.Roger と

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: chiiki2@toyamah.johas.go.jp